

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 - II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 - III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 - IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 - V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【長野県松本市】

学校名【松本市立奈川小中学校】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	奈川小学校：1年生2名 3年生5名 4年生1名 5年生3名 6年生3名 計14名 奈川中学校：1年生4名 2年生3名 3年生1名 計8名 児童・生徒計22名 保護者 13名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（特別活動 道徳） ② 行事名（車イスバスケットボール体験） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 (ねらい)	・パラスポーツの体験・学習を通して、バリアフリーやスポーツを通じた共生社会について関心を持ち、実践しようとする態度を育てる。 ・パラアスリートとの交流やパラスポーツ体験から、誰もがスポーツを楽しみ、人生を豊かにしていけることを学び、スポーツへの関心を高める。
5 取組内容	1 ボッチャの学習 3年間、特に小学校を中心に学習してきたボッチャを今年度も継続し、小学校の親子レクリエーションで行い、家庭でもパラリンピックのボッチャを見ながら競技について話をしたという家庭が多く見られた（写真1）。  2 オリンピック・パラリンピックの観戦を通じた学習 (1) オリンピック観戦の学習 令和3年は、東京オリンピック・パラリンピック開催年ということで、テレビでの観戦を通じた学習と、まとめとしてパラスポーツの体験を行い、今後の社会について考える学習を構想した。 東京オリンピックについては、夏休みに重なるので、事前の学習を行った後、各家庭で観戦し、その感想を、一人一台端末を使って共有した。小学校1年生から中学3年生まで、G o o g l e C l a s s

r o o mに投稿する形で、感想を共有した。当初は、勝ち負けや順位についての感想が多かったが、多くの感想が集まる中で、アスリートの礼儀や努力に目を向ける投稿が増えた。また、保護者からの投稿もあり、それによって考えさせられた、という生徒もいた。(資料1)。

資料1 投稿されたGoogle Classroomの内容(抜粋)

- ・混合ダブルスで伊藤選手と水谷選手が金メダルを取っていて感動しました。
最後まで諦めず戦い続ける強さや、集中力。たくさんの力を知ることができました。ラリーがはやくて、気づいたら息を止めながら見ていました。
決勝に勝った時の二人の喜びが伝わり、見ている側もうれしくなりました！
- ・柔道の阿部兄妹を見ました。世界選手権で優勝していた詩さんは、マークされながらも顔色ひとつ変えず、試合に臨んでいました。一二三さんは勝った後、喜ぶ前にお辞儀していたことが印象に残っています。試合に勝った後も礼儀を忘れない姿、とても感動しました。

(子ども同士のチャット)

- ・スケートボードなど新競技の金メダルが多いし、中学生の優勝すごいですね。
- ・スケートボードで中二の女子が金メダルを取ったね！すごいね！
- ・自分たちと同じ年くらいの人が活躍していてすごいね。

(保護者からの投稿)

私が今回、楽しみにしていたことは、体操の内村選手が金メダルを取るかどうかです。

絶対王者と呼ばれていた、内村選手、6種目で東京オリンピック出場を目指していましたが、長年酷使してきた体が悲鳴をあげたことと、年齢による体の衰えから今までのように体を動かすことができず、今回は、紆余曲折を経て、鉄棒1本で、東京オリンピックの代表となりました。

東京オリンピックに出る選手一人ひとりに、色々なドラマがあるということを知り、良いことばかりじゃなく、辛い思いもしながら、目標に向かっていく姿に感動しました。

今回、金メダルを期待していましたが、やっぱりオリンピックには魔物がいるというのは、本当でした。

(1) パラリンピック観戦の学習

9月に小学校1、3年、4～6年、中学生の合同学習で、オリンピックから学んだこと(国際理解・共生・多様性の理解等)をまとめ、パラリンピックの開会式と、2日目に最年少メダリストになった山田美幸さんの水泳を観戦し、感想を交流した(資料2)。

資料2 水泳の山田美幸選手の泳ぎを観戦しての感想

- ・自分の体に障がいがあって、そこからパラリンピックに行くまでたくさんの苦しいことを経験したと思うけど、自分に合った泳ぎを見つけていてすてきだなと思いました。
- ・障がいのある人たちにも公平に挑戦を与えられるパラリンピックを見てすごいと思いました。その挑戦に向かってがんばる選手もすごかったです。
- ・14歳で銀メダルをとるなんてすごいと思った。
- ・重い障がいがある人や手や足がない人が自分にできる泳ぎ方を見つけてあんなに早く泳げるのはすごいと思った。

その後のパラリンピックについては、各家庭で観戦して毎日感想を交流したり、給食時に観戦したりした。

パラリンピック終了後、中学生は車いすバスケットボールや車いすラグビー、陸上等の競技のVTRを見ながら改めてパラリンピックの4つの価値（勇気、強い意志、インスピレーション、公平）について振り返り、まとめをした（資料3）。

資料3 パラリンピックの4つの価値について考えたこと（中学生）

- ・あきらめずに競技をしているところに強い意志と勇気を感じた。
- ・見ている側（観客）の心を揺さぶるところにインスピレーションを感じた。
- ・障がいの程度に合わせて、ルールなどに工夫がされていたところに、公平を感じた。
- ・どの選手にも強い意志があった。パスをつなげ、絶対にとるという気持ち、シュートする気持ちが表れていた。
- ・相手に立ち向かう気持ち、勝ちたいという気持ちがあふれており、強い意志を感じた。

また、この学習から、パラリンピックでのアイディアを社会の仕組みに生かしていくことが、インクルーシブな社会づくりにつながることを学んだ。

（2）車いすバスケットボールの体験

オリンピック・パラリンピック学習のまとめとして、体験したいパラスポーツを自分たちで選んだ。令和元年度に一度体験した車いすバスケットボールをもう一度体験したいという意見が多く、再度車いすバスケットボールを体験することにした。

児童・生徒は、東京パラリンピックの男女の車いすバスケットボールの試合を、ウェブで選手について調べながらもう一度見返し、体験への関心を高めた（写真6）。

車いすバスケットボールの体験会の講師は、令和元年度と同じ元パラリンピック車いすバスケットボール日本代表で、東京オリンピック・パラリンピック聖火リレー走者も務めた奥原明男さんをお願いした。

奥原さんは、体験も2回目となり、今年あったパラリンピックについての話もしたいということで、体験の前に全員と車座になってディスカッションを行った。児童・生徒は自分たちから意見を出す積極的な姿が見られた。また、「パラリンピックの選手は、自分の強みを生かして競技をしていた。」「最後まであきらめずに頑張る姿に学ぶことがあった。」等、3年間の学習の積み重ねを感じさせる発言が多く、奥原さんも頷きながら聴いていた（写真3）。



写真2 調べながら観戦する小学生



写真3 児童の話を聞く奥原さん





写真4～8 体験の様子

車いすバスケットボールの体験では、小中学生共に一人一台車いすに乗り、実際のゲームも体験した。児童・生徒は、最初は難しそうに車いすを操作していたが、慣れてくると楽しそうに活動をしていた。小学生、中学生共にしっかりと車いすを操作しながらゲームを行うことができた（写真4～8）。

感想は、小学校1～3年生は感想用紙に書き、小学校4年生～中学校3年生はGoogle classroomに投稿して共有した（資料4）

資料4 車いすバスケットボール体験の感想

- ・僕が車いすバスケットボールを体験してみて心に残った事は、試合形式の車いすバスケットボールです。3年生の時に体験した時は車椅子の動かし方とシュートしかなかったけど、試合形式でできたのが心に残った。これからもこの経験を活かしたいし、オリンピック・パラリンピックも注目したいです。これからも色々なパラリンピック競技に挑戦してみたいです。
- ・車いすバスケットボールの体験をしてみて、動き方がすごく難しくて大変だということがわかりました。シュートも、足が使えなかったので腕だけでシュートしていると思うとすごいなあと思いました。一昨年よりも、楽しく車いすバスケットボールができてよかったです。他にも、奥原さんのお話もとても心に残りました。パラリンピックの競技について色々調べてみたいと思いました。車いすバスケットボール体験して、協力をしないといいチームワークが出来ないということが分かりました。来年も車いすバスケットボールを体験してみたいと思いました。また来年教えてほしいです。
- ・2度目の車いすバスケの体験をして、車いすに乗ったままバスケをするのは難しいなと改めて感じました。
ボールはゴールになかなか入らないし、車いすで動きながらドリブルやパスをするのは本当に難しかったです。試合中も自分がどこに動けばいいのか、どうすればシュートをきめることができるのか、考えながらやっていました。でも、奥原さんのように日本代表の人たちは、車いすを止めることなくゴールへ進んでいったのですすごいと思いました。また、車いすが少し押すだけで進むことや、タイヤを斜めにして曲がりやすくしているところに工夫を感じました。すごくいい体験、勉強ができました。
- ・私は、一昨年やった時とは違う発見が沢山ありました。車いすバスケは「協力」がとても大切だと改めて実感しました。みんなでパスをつなぐ、声を掛け合う、自分から動きパスをつなぐなどといった普通のバスケでも重要となってくることを沢山学べました。奥原さんや児童、生徒のみなさんの意見も聞くことができてすごく良い体験となりました。これからもっとパラリンピックを積極的に見たいと思いました。本当に楽しく、色々なことが学べました。来年もぜひ車いすバスケを体験したいです。ありがとうございました。

	奥原さんは、最後に「このような障がい者スポーツを体験した君たちだからできることがある」と児童・生徒に伝えた（写真9）。  写真9 奥原さんを囲んで全体での集合写真 （3）今後の予定 オリンピック・パラリンピックイヤーが終わる今年度で活動に一区切りをつけようと考えていたが、児童・生徒から「来年も是非パラリンピックの勉強をして欲しい。」という声が多く、来年度からどのような活動ができるのか現在検討中である。 2月には、オリンピック・パラリンピックイヤーの終了に合わせて、東京パラリンピックに出場した選手にオンラインで実際に話を聴く機会を設ける予定である。
6 主な成果	過去2年間、パラスポーツの体験は行うものの、児童・生徒は、パラリンピックやバリアフリー、インクルーシブ社会への学習には今ひとつ興味を持てなかったようだったが、今年度、一人一台端末を使用したオリンピック・パラリンピックの学習と、本物のオリンピック・パラリンピックのテレビ観戦を通して、一気に子どもたちの興味・関心が高まった。さらにその興味・関心を車いすバスケットボールの体験につなげたことで、子どもたちが「価値ある学習ができた」と実感し、「来年以降も続けたい」と思ってくれたことが大きな収穫だった。 学校独自でとったアンケート（記述式）の「奈川小中学校のよさは何ですか？」の回答に「奈川小中学校ではパラリンピックの学習ができる。個々でしかできない学習ができて幸せだ」という回答が複数あった。 3年間さまざまなパラスポーツの体験を行ってきたが、本年度のパラリンピックの実際の観戦と今までの体験が子どもたちの中でつながり、学習の積み重ねが表れた学習になった。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	・東京オリンピックが夏休み中の開催だったので、事前指導をした上で、一人一台端末を使って感想を全員で共有する学習をした。全員がオリンピックを観戦し、オリンピックを多面的に見て感想を書き込み、全校で交流ができ、オリンピックが子どもたちの中に位置付いた。 ・パラリンピックについても同様に言い、それをパラスポーツ体験につなげたことで、深い学びができたように思う。
8 主な課題等	・一人一台端末を使った学習は、オリンピック・パラリンピックに関して豊富な資料があるので、有意義な学習につなげられると感じる。家庭での観戦の仕方や、感想の書き方等はルールを守ることや観戦の視点を示すことが大切だと考える。 ・期間限定で行うのではなく、体験を軸に年間を通じて無理なく行うことができるようなカリキュラムを考えていくことが大切だと考える。
9 来年度以降の実施予定	・ボッチャ大会を地域の方と継続的に行う体勢を整える。 ・児童・生徒の要望に応え、パラスポーツの体験会を年間1度は行い、それに向けての事前・事後学習を行う。